



Title	大阪大学低温センターだより第160号裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 2013, 160
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25918
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

今年の1～3月頃を最悪期とした危機的状況からは徐々に脱しつつありますが、ヘリウムは相変わらず厳しい状況が続いています。市場での流通量は徐々に増えているようですが、ヘリウムを断念していた顧客も徐々に戻っているため、需給バランスはなかなか正常に戻らず、市場価格は上昇を続けているそうです。低温センター吹田分室で購入している気体ヘリウムもここ数ヶ月間で2回値上げとなりました。1回目は5%程度の値上げで済みましたが、2回目は20%を超える値上げで、トータルで30%近い値上げとなっています。この先も予断を許さない状況が続きそうです。

さらに電気料金も値上げされました。関西電力は大口顧客向けを約17%値上げしましたが、さらなる値上げが噂されています。電力によってヘリウムを気体から液体へ状態変化させている低温センターとしては、こちらも予断を許さない状況が続いています。

竹内先生の記事にありますように日本はヘリウムを全量輸入に頼っており、そのほとんどはアメリカから来ています。アメリカは1996年にヘリウム民営化法を制定し、それまで国家備蓄していたヘリウムを市場に放出する政策を取ってきました。しかし最近、アメリカ議会でヘリウムの市場放出量を抑制して、国家備蓄を継続する新法について審議しています。日本にとって最大の輸入元のため非常に気になる動きです。

次号以降もヘリウム状況に動きがあれば関連記事を掲載する予定にしています。

(百瀬英毅)

大阪大学低温センターだより 第160号

平成25年7月 発行

編集責任者	清水 克 哉
発行者	大阪大学低温センター
吹田分室	大阪府吹田市山田丘2番1号 電話(06)6879-7985
豊中分室	大阪府豊中市待兼山町1番1号 電話(06)6850-6090
事務局	大阪府吹田市山田丘2番1号

印刷所	阪東印刷紙器工業所
	大阪市福島区玉川3丁目6番4号
	電話(06)6443-0936(代表)

目 次

No. 160

巻頭言

液体窒素、液体ヘリウム、低温センターとの係わり	朝日 一	1
-------------------------------	------------	---

最先端・次世代研究開発支援プログラム特集

オイル中の有害物質を除去・回収できる植物性吸着剤の開発	工学研究科 木田 敏之	2
AFM探針活性度の原子操作に及ぼす影響	工学研究科 杉本 宜昭	10

談話室

ヘリウムの供給の見通しについて	低温センター 豊中分室 竹内 徹也	15
-----------------------	-------------------------	----

お知らせ

投稿のご案内	18
定期購読・送付先変更について	19

運営組織	20
------------	----

平成24年度寒剤供給量	21
-------------------	----

総目次 (No.141 ~ No.160)	24
-------------------------------	----

表紙説明：Si(111)-(7×7)表面での原子操作時における非接触原子間力顕微鏡(NC-AFM)により測定されたラインプロファイル(上図)とシクロデキストリン(CD)によるゲスト分子の包接と放出の模式図(下図)。詳細は本文を参照。